

東大和市立図書館

図書館だより

平成24年 冬
通巻18号

ホームページアドレス <http://www.lib.higashiyamato.tokyo.jp>

特集 みずうみ号 出発から35年



慶性院での初代・みずうみ号

東大和市で、図書館が産声をあげたのは、昭和52年1月20日木曜日でした。

その名は移動図書館「みずうみ号」。それまで公立図書館らしい活動は南街公民館の図書室しかありませんでした。

あれから35年。中央、桜が丘、清原と3館の図書館ができました。

そして、今日もみずうみ号は図書館から遠い地区を回って、皆さんに本や紙芝居を届けています。

— 目 次 —

- ・みずうみ号 35周年 2
- ・講演会 「ブックトーク」 4
- ・ある日の図書館…
- ・子ども読書活動推進計画 策定中
- ・図書館協議会のお知らせ 6

みずうみ号

35周年!

移動図書館・みずうみ号 のあゆみ

- 昭 52 年 1 月 20 日 みずうみ号巡回開始
ステーションは 10 ヶ所
(昭 56 年には最大 15 ヶ所)
- 昭 58 年 11 月 11 日 中央図書館開館準備のため、巡回中止
- 昭 59 年 4 月 15 日 中央図書館開館
11 月 29 日 6 ヶ所で巡回再開
- 平元年 12 月 13 日 みずうみ号 新旧交代
12 月 14 日 桜が丘都営集会室前にステーションを増設
- 平 2 年 7 月 4 日 運行日を木曜日から水曜日に変更
- 平 5 年 6 月 2 日 桜が丘図書館開館のため、桜が丘都営集会室前ステーションを廃止
- 平 5 年 7 月 1 日 桜が丘図書館開館
- 平 19 年 1 月 19 日 清原図書館開館
1 月 24 日 清原図書館開館のため、きよはら児童館前ステーションを廃止
- 平 23 年 3 月 16 日 東日本大震災のため中止
3 月 30 日 再開
5 月 18 日 被災地支援のため中止
5 月 20 日 宮城県石巻市へ出発
10 月 31 日 被災地支援終了 石巻市より戻る
11 月 30 日 運行を再開



被災地でのみずうみ号

みずうみ号とは？

移動図書館・みずうみ号は、図書館から遠い地域にお住まいの方に図書館サービスを利用していただくため、市内を巡回しています。

当初は市内に図書館がなく、神社や公園、団地など 10 ヶ所のステーションを回っていました。

巡回初日の最初のステーションでの貸出冊数は 497 冊でした。子どもから大人まで大盛況！巡回を楽しみに待っている人も多く、ステーションも増え、1 ヶ所で 1,000 冊を超えて貸出すこともありました。

その後、中央図書館が開館すると、一時のにぎわいはなくなりましたが、現在も近所に住む子どもたちや、学童保育所の子どもたち、小さい子を連れのお母さんやお年寄りの方などに利用されています。

建物の図書館のようなカウンターがないからか、みずうみ号は、利用されている方と、職員の距離がより近く感じられます。子どもたちも気軽に声をかけてくれ、職員としても嬉しく思います。

被災地支援のために・・・

平成 23 年 3 月の東日本大震災で、東北地方の図書館は大きな被害を受けました。市内ボランティアから要請があり、みずうみ号は 5 月から 10 月までの約半年間、被災地支援のために宮城県石巻市に派遣されました。

今まで東和市の外に出たことがないみずうみ号が、高速道路を走り、500km も離れた場所へ行ったのです！無事に着くか、道の悪い被災地を走れるかなど、心配も色々ありましたが、大活躍してきました。

現地では、ボランティアの方たちが本やマンガなどを積んで、避難所の小学校などを回っていました。子どもたちを中心に、多くの方に利用されていたようです。

再び、東大和市で

石巻市から戻ったみずうみ号は、定期点検を済ませ、リフレッシュして、11月30日から運行を再開いたしました。

初日は、季節外れのポカポカ陽気でした。再開のお知らせがどこまで届いているか、忘れられていないかと、早めに別の車で「今日、みずうみ号が来ます！」とステーション周辺をいつもの「どんぐり ころころ」のテーマソングを流しながら走りました。

1ヶ所目は、湖畔自治会集会所。静かな住宅街にあるステーションですが、到着した途端に、ランドセルを背負ったまま、学校帰りの男の子たち3人が、「おかえり！」と駆け寄ってきてくれました。「カードを今持っていないなくても、名前と電話番号が確認できれば、本が借りられるよ。」と声をかけると、みんな嬉しそうに本を借りてくれました。「家族の介護があって、家を空けるのが大変で…」と言いながら、熱心に本を選んでいました。

2ヶ所目は、上北台団地東側。ステーション前の公園では、大勢の子どもたちが遊んでいて、早速、何人も寄ってきてくれました。大人の方も多く、「急に来なくなったから、借りていた本をどこに返していいか分からなかった。」という方も。

多くの皆さんに久しぶりのみずうみ号をあたたかく迎えていただき、地域に出ていく大切さを実感しました。

35周年を迎える「みずうみ号」を、今後ともよろしくお願いいたします。

「みずうみ号」をご利用ください

- 中央・桜が丘・清原図書館と共通のカードで、2週間12点、本などが借りられます。
- 利用カードの発行もできます。(中学生以上の方は証明書が必要です。)
- 読みたい本・CDは、電話やHPで予約して、みずうみ号で受け取れます。
- 5ヶ所のステーションを2コースに分けて、それぞれ隔週の水曜日に巡回しています。日程は予定表や市報、HPに載せています。※雨の日は中止になります。

ステーション名	巡回時間
多摩湖畔自治会 集会所前	午後1時30分～ 2時15分
上北台団地東側	午後2時30分～ 3時15分
蔵敷公民館	午後3時30分～ 4時15分
向原市民センター	午後2時30分～ 3時15分
清水神社境内	午後3時30分～ 4時15分

- ステーションには、返却ポストがあります。本と雑誌はいつでも入れられます。



再開初日のみずうみ号



広げよう本の世界 子どもたちにブックトークを！

2011年10月27日
講演会を開催しました！

BOOKTALK

きたり はいたり かぶったり

ブックトークをご存知でしょうか。

「あるひとつのテーマにそって数冊の本を順序よく、じょうずに紹介すること」で、ここ数年の間に、学校などで盛んに取り上げられるようになりました。

図書館も、小中学校の依頼を受けて、出前ブックトークをやることがあります。

ブックトークは、子どもたちに本の楽しさを伝えるために有効な方法ですが、まだ絵本の読み聞かせのようには、やり手が育っていません。

そこで、子どもの読書に関心のある方々に、もっともっとブックトークを知ってもらいたい！もっともっと子どもたちにブックトークを届ける人たちが増えてほしい…そんな願いを持って、ブックトーク講演会を開催しました。

本から広がる世界を案内してくださったのは、張替恵子氏（公益財団法人東京子ども図書館理事・事務局長）です。受講者は、講師のトークに引き込まれ、この本、読んでみたい！続きが読みたい！という気持ちにさせられました。

それでは、講演会の様子をのぞいてみましょう。



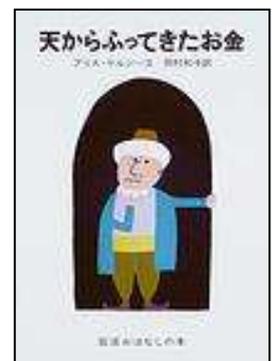
みなさん、身支度をするとき、一番最初に着るものは何ですか。そう、下着ですね。最初の本『ひとりっ子エレンと親友』¹は、その下着にまつわるお話です。

主人公はアメリカの三年生の女の子エレンです。《エレンは、バレエ教室に一番乗りするために大急ぎ。誰もいないところでレッスン着に着替えたかったからです。でも先着にオースチンという女の子が！エレンがどうしてもひとりで着替えたかった理由、それは下着でした。その下着の一騒動でエレンとオースチンは仲良くなりますが、大げんかもして…》表紙のように、ふたりは仲直りができるでしょうか。気になる人は、どうぞ読んでみてくださいね。

下着を着たら、今度は上着。この上着を着ているのは、ナスレディン・ホジャというおじさんです。

今日は『天からふってきたお金』²から着るものにまつわる「ごちそうをたべた上着」を語りしたいと思います。

《ストーリーテリングで語る》



さて、着るものの次は、はくものに移りましょう。ホジャはだぼつとしたズボンをはいていますが、ここにも似たようなズボンをはいた女の人たちがいます。

『ズボンとスカート』³

《世界のいろいろなズボンを紹介》

さて、ズボンやスカートをはいたら、次は靴。人間はいつごろ、どうやって靴を発明したのでしょうか。

『ブータレとゆかいなマンモス』⁴

《主人公はみにくい氷河人。このブータレにマンモスのハーマンがちょっかいを出したことが靴の発見へ?!》



ここでは、かいつまんでしかブックトークの様子を再現できませんが、このようにして、講師は次々となめらかなトークで本をつないで、紹介していきました。本を手にとって読んでみたい!そんな気持ちにさせられますね。

今回のブックトークで取り上げられた本は、あと4冊。どんなふうに繰り広げられていったかをお知りになりたい方は、『こどもとしょかん』第125号・2010年春・東京子ども図書館をご覧ください。

さて、雰囲気がかめたとところで、ブックトークについての要点を紹介します。

★ブックトークは見世物風のパフォーマンスではなく、プレゼンテーション。

★主役は本!

♣ブックトークとは

- ◆集団を相手にするもの。
- ◆年齢は中学年以上が対象。小さい子には、読み聞かせなどで本を丸ごと楽しんでもらう。
- ◆長さは約30分、盛り沢山にしない。

♣目的

- ◆その本を読みたいという気をおこさせる。
- ◆ブックトークをする人の書物に対する関心や愛着を印象づける。
- ◆本って面白そうだな、もしかしたら本を読むって面白いのかもしれないと思ってもらえるだけでもいい。読書を喜び、楽しみの源だと思ってもらえたらいい。

♣テーマ

- ◆子どもの興味にフィットするものを。
- ◆日頃から本に親しんでいると、神様がテーマを恵んでくれる。

♣テクニック

- ◆本と本をつなぎが大切。
- ◆首飾りの糸のようにトークで本をつないでいく。



とっても楽しかった!2時間あっという間だった!本が生きているブックトークだった…そんな感想が寄せられた講演会。

市内の学校図書館指導員の方にも沢山参加いただきました。大変勉強になりました!という声も多く、今後、学校での展開も楽しみです。皆さんも取り組んでみませんか?

紹介された本

- 1:ベバリイ・クリアー作 ルイス・ダーリング画 学習研究社 93ク
- 2:アリス・ケルジー文 和田誠絵 岩波書店 94
- 3:松本敏子文・写真 福音館書店 38
- 4:デリク・ Sampson 作 サイモン・スターン画 学習研究社 93サ

※ の中は図書館での分類

ある日の図書館…



子ども読書活動推進計画 策定中

1990年代に子どもたちの本離れが、社会問題となりました。国は子ども読書活動推進法を制定し、国・都道府県・市町村とそれぞれのレベルで、「子ども読書活動推進計画」を策定し、計画的に子どもの読書環境を整えることを、推進してきました。

市町村での策定は義務ではありませんが、多摩地域の各自治体もここ数年、策定に取り組んできました。東大和市も今年度、計画策定委員会を設置し、図書館を事務局にして、策定作業をしています。

子どもは、家庭、図書館、学校を中心に、児童館、保育園…市内のあちこちで本にふれています。また、文庫や読み聞かせのボランティアなど、多くの地域の方々も子どもと本を結びつけています。

こうしたさまざまな活動が、互いにつながりながら広がっていき、「本はともだち」と言える子どもが増えるために、現状を把握し、優先すべき課題は何か、どう取り組むかを議論しています。

東大和文庫連絡会では、毎年、児童文学者など呼んで講演会をしています。

今年はきど・のりこさんによる「東アジアの絵本を読む」でした。

講演会後の1週間、「東アジアの絵本展示会」も開催しました。

さらに図書館所蔵の関連本はフロアで展示・貸出しました。

展示本リストがありますので、ご利用ください。

図書館協議会の報告

平成23年度第2回図書館協議会を11月10日（木）に開催しました。

- 議題：1. 平成22年度決算について
2. 平成24年度予算の概要について
3. その他
- ・外国語図書の選書について
 - ・子ども読書活動推進計画の進捗状況について

訃報

東大和市立中央図書館の初代館長を務められた、中村水生（なかむらみずお）氏が、平成23年11月19日、逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

〈編集後記〉

特集が前号の「25年賞」に続き、周年ものとなりました。このように年輪を重ねてこられたのは、市民の皆さんが、図書館を育ててくださっているからこそです。「図書館は3年で1歳」と言う人もあります。中央図書館がようやく8歳。

み記

発行：平成24年1月（通巻18号）

東大和市立中央図書館 TEL042-564-2454

桜が丘図書館 TEL042-567-2231

清原図書館 TEL042-564-2944